

10年後の自分と、京都のまちの、  
ミライとモンドイを考える。  
**京都市基本計画審議会**

**U35**のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

# 傍聴記

vol.15

## 共済部会 第3回すこやか部会

(「保健」「教育」「福祉」分野)

主な議事:分野別方針<学校教育・生涯学習>の検討

開催日:平成22年2月10日(水)

会場:こどもみらい館



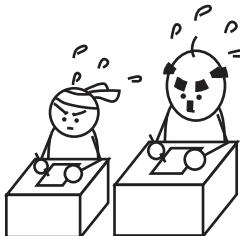
レポーター 松村 幸裕子さん

すべての子どもたちが学びたいと思うには、すべての大人们が「学びとは何か」を考えなくてはならない、と考える教育大の大学院生

### 会議のポイント

#### POINT 1.

#### 子どものためだけの教育? 大人にも関わってくる教育



教育といえば、子どもに対するものとだけ捉えられがちですが、そうやって子どもの教育の話をしながら、大人がどのように行動していくかが話し合われていたのが印象的でした。

#### この会議を傍聴して、 松村さんが思ったこと。

教育の当事者がいない中で行われる話は、どう教育をおこなっていくかという大人目線で展開されていました。その中で、一人の委員さんが出された、会議の中で話される子どもたちは大人からみた姿であること、携帯電話等がもたらすマイナス面だけを取り上げ、子どもたちが日常の中で体験して学んでいるものを無視するのはどうか、という意見に共感しました。「子どもたちにこんな教育を!」と大人は考えがちだと思います。ですが、子どもたちが「いま、ここ」で学んでいることが多くあります。また、教育を受ける権利は子どものものだけではなく、市民一人ひとりの権利であることを考えれば、違った議論が展開されたのではないかと感じました。

#### POINT 2.

#### 「教育」の多様性 京都の中でできる教育とは?



○○教育と名のつく多様な教育を京都の中でどう実践していくか。幼稚園から高等学校まで、そしてその先にある生涯教育、一貫した流れの中でどのように「生きる力」をつけるかが話し合われました。

#### 私ならこうする! 未来の京都に向けた松村さんの提案

##### 「まなびや」が身近にある京都

学校教育や生涯教育という枠組みにとらわれず、子どもが「おとな」「市民」になっていく、大人も「市民」となっていくような教育が展開されていくように、地域の中の学びの場=「まなびや」をたくさん作っていけたら素敵ですね。人間として、学ぶ喜びを子どもの頃から知り、学ぶことにどんな欲になることが自ら考え、動き出せる「市民」となっていく近道だと考えます。学ぶことがおもしろくないことではなく、楽しく、おもしろいものであることを、日常生活の体験の中から感じ取れるようなきっかけづくりの場をつくりたいです。

U35については、こちらをご覧下さい。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。  
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

